

岐阜県立森林文化アカデミー 学校評価 令和元年度 自己評価報告書

1. 学校の教育目標

森林や木材に関わるさまざまな分野で活躍する人材を育成することを目的として総合的な教育を行う。

「森と木のクリエイター科」は、特定分野における高度な専門知識と、問題解決のための企画力、想像力をもったスペシャリストを養成する。

「森と木のエンジニア科」は、林業・林産業に関わる幅広い知識、技術を学んだうえで、現場で高い安全性と経済性を両立できる技術者を養成する。

県民を対象に楽しい学びを提供する「オープンカレッジ」や、専門技術者を対象に最新の知見や技術を提供する「専門技術者研修」など、幅広い活動を行う。

2. 本年に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

将来に対し県民から必要とされる森林文化アカデミーに進化するため、アカデミーの改革プランに基づき本年度は次の取組みを重点的に実施した。

(1) 専修教育部門における令和2年度カリキュラム編成の見直し

→ 専修教育の質的向上を図るため、教務委員会が中心となり、授業科目の見直しやシラバスの改良を行いカリキュラム編成の見直しを実施したほか、エンジニア科林業コース及びクリエイター科林業専攻学生を対象に、技能習熟度を確認するため林業技能検定を実施した。

(2) 外部委員による学校運営向上プランに基づく取組み

→ 平成30年度に、県内の森林文化アカデミー、国際園芸アカデミー、農業大学校の3校の更なる運営向上を図るため、外部委員からなる「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上検討会」を設置し、各校の課題抽出、及び対策を検討し、3校運営向上プラン（以下、「運営向上プラン」という）を策定した。

今年度は、本プランに基づき、小中学生向けの3校見学ツアーや3校共同のPR活動、3校連携授業のほか、教職員の意見交換を実施し、本校の運営向上に取り組んだ。

(3) 学生の確保

令和2年度入学定員数の確保（クリエイター科20名、エンジニア科20名）

→ クリエイター科では23名の受験者があり、19名の合格者（のち1名辞退）

を確保したが入学者は 18 名にとどまった。

エンジニア科では 41 名の受験者があり、24 名の合格者（のち 1 名辞退）を確保し、最終的には 23 名の入学者を確保することができた。

（４）就職指導強化

エンジニア科の県内就職率 80%以上

→ 企業説明会のほか、森林技術開発・普及コンソーシアムの協力を得て、県内企業による就職相談会を強化した結果、エンジニア科の県内就職率は 80% には届かないものの 78%を確保することができた。

（４）ロッテンブルク大学との連携等

学生交流、教員研究等連携事業の着実な実行

連携協定の更新と次期協定に基づく新プロジェクトの推進

→ロッテンブルク大学との連携事業は下記のとおり成果をあげた。

- 学生の派遣研修

ドイツサマーセミナーに 5 名、森林環境教育研修に 1 名の学生を派遣し、ドイツの森林・林業・木材産業・環境教育等を研修することができた。また、ロッテンブルク大学から短期留学生 2 名を受入れるとともに、ロッテンブルク大学へアカデミー学生 1 名を留学させた。

- 森林環境教育調査

教員がドイツ等の森林環境教育現場を視察調査、実施研修を行い、今後本校で実施する環境教育プログラムの策定に役立てた。

- 研修成果の学内発表会の開催

研修した学生・教員により、学内にて報告会を実施し、研修内容を他の教員・学生と共有した。

- 連携協定の成果

林業分野で、ロッテンブルク大学の教授、学生との共同研究成果を専門誌へ投稿し論文掲載された。

- 連携協定の更新

令和元年 11 月に終期を迎える協定について、更に 5 か年間の継続協定を締結した。

この新協定において、5つのプロジェクト（林業、森林環境教育、木造建築、狩猟・獣害対策及び森林浴）について、両校で今後の取組むことを確認した。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	④	3	2	1
1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
2. 学校における職業教育の特色は明確になっているか	④	3	2	1
3. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生や保護者等に周知されているか	④	3	2	1

①今年度の取り組み実績、課題、今後の改善方策

1.2.3 森林文化アカデミーは、「森林と人との共生」を基本理念とし、すべての人々が森林と親しく関わりを持ち、森林からの恵みを持続的に享受できる社会づくりを目指して、全国で初めての森林教育・学習機関として平成13年(2001年)に開学した。

本学には、現場で自ら行動できる技術者を育成する「森と木のエンジニア科」と、森と木に関わるスペシャリストを育成する「森と木のクリエイター科」があり、それぞれに求める人物像や学びの特色を明確にしている。

教育理念や目標、育成人材等については、利用者がより分かりやすくなるよう本学ホームページを適時改正して一般公開しているほか、学校案内にも具体的に記載している。

入学を希望する学生や保護者等には、オープンキャンパス、エブリデーオープンキャンパス(随時学校見学会)、学園祭、高等学校進路相談会等により広く案内している

②特記事項

本学の教育理念、教育方針をより明確にするため、平成29年度にディプロマポリシー(卒業認定方針)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)、アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)を策定し、本学ホームページで一般公開するほか、学生募集要項に掲載している。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
4. 目的に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
5. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
6. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	④	3	2	1
7. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
8. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
9. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
10. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

- 4.5 本学の運営方針、事業計画は、県予算資料で毎年度策定されている。また、所属目標として重点的に取り組むことが必要な目標や計画を策定している。特に重要な事項については重点施策に位置づけ、定期的な進行管理に努めている。
6. 本学の学則、経営会議規程、運営会議規程、各種委員会規程等を整備し、運営組織や意思決定機能を明確にしている。また、原則毎月1回経営会議、運営会議を開催し重要事項について意思決定を図っているほか、各種委員会や教職員会議を開催し教育内容の検討、情報の共有や周知を図っている。
7. 人事・給与等に関する規程は、県において整備されている。
8. 本学の処務規定を整備し、組織的な意思決定システムを整備している。
9. 対外的なコンプライアンスは県立学校として県に準じて整備している。
10. 本学の概要や教育方針、活動報告、キャンパスライフ等については、ホームページ上で常時公開している。

②特記事項

全教職員に対し、毎年度業績目標を定め、業績評価、能力評価を実施し、学校教育の改善に努めている。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
11. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
12. 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
13. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	④	3	2	1
14. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
15. 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
16. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取入れているか	④	3	2	1
17. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
18. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
19. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
20. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（非常勤講師等を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

11. 森林文化アカデミー改革プランに基づき、エンジニア科は平成 27 年度から 2 年次を「林業コース」と「林産業コース」の 2 コース制とし、クリエイター科は平成 29 年度から「林業」「森林環境教育」「木造建築」「木工」の 4 専攻とし、課程ごとに専門的な人材を育成することとする教育課程の編成・実施方針を策定した。
- 12.13 森林文化アカデミー改革プランに基づき、平成 28 年度、29 年度の 2 か年間でカリキュラム編成の見直しを実施した。
令和元年度も、授業アンケート結果や学内委員会での検討をもとに、科目や授業内容を再検討しカリキュラム編成を見直した。
14. 現地現物主義として実践教育に重点を置いた教育体系を取っている。
企業インターンシップはエンジニア科では必須、クリエイター科では選択して実施

できるようカリキュラムが整備されている。

各分野の専門家や実務者を非常勤講師として招き、実践的な職業教育が受けられるよう体制整備がされている。

関連分野の企業を集めて学生向けに行う企業説明会や、企業の代表者による学生との意見交換会（キャリアカフェ）をカリキュラムに位置付けて実施している。

15. 各授業について、学生アンケート（授業評価）を前期・後期ごとに授業終了後実施している。

授業ごとに 13 の質問項目を設定し、4 段階で評価するとともに、改善点を記述するようにしており、その結果を教員に還元して授業改善に努めている。

16. 関係する業界等から意見・提言を取入れ、常に改善を行いながら授業や実習等に取り組んでいる。平成 30 年度に設置した外部関係者による県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上検討会の委員による学校視察を実施し、委員との意見交換を行った。

17. 成績評価・単位認定・卒業要件は学則に規定するとともに、これらをガイドブックに記載し学生に配布して適切に運用している。卒業認定は卒業認定会議により審議・決定している。

18. 資格取得に関する案内は、ガイドブックに記載し学生へ配布して周知している。資格取得にかかるカリキュラムを体系的に編成し、授業・実習を行うことで資格取得を促進している。また大型特殊やフォークリフト等外部機関による免許取得を促進するためカリキュラムの配慮や授業等による支援を行っている。

19. 林業、森林環境教育、木造建築、木工の 4 分野において、専門的知識・技術を有する専属の教員を 17 名確保し、教育を行っている。

また、授業以外にも、市町村や企業から研究を受託し課題解決に向けた取り組みを行っているほか、自主的な教員研究も実施し、教員の能力向上に努めている。

なお、教員が取り組んでいるプロジェクトや研究を取りまとめたアニュアルレポートを発行した。

20. 関連業界や各分野で活躍している専門家や実務者約 75 名を非常勤講師として招き、幅広く多様な教育を実践している。

また、各業界で活躍している 2 名の特別招聘教授、1 名の名誉客員教授、3 名の客員教授から専門的な立場での授業・指導等を行っているほか、連携協定を締結している企業の社員による授業・実習を実施した。

②特記事項

特になし。

(4) 学習成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	21. 就職率の向上が図られているか	④	3	2
22. 在学生、卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

21. 令和元年度の就職率は、昨年度に引き続き、エンジニア科、クリエイター科ともに100%であった。今後も就職率100%を目標に企業等とのマッチングや就職相談会等に取り組んでいく。

22. 在学生については、教育活動や社会活動等で他の模範となる学生を表彰する規程を設け毎年表彰しており、令和元年度は学長奨励賞1名を選出し表彰した。

卒業生の活動や取組みについて、可能な限り把握して本学ホームページや学校紹介パンフレット等において随時紹介している。また、卒業生とのネットワークを活用し、在学生の就職支援や研究活動支援等に役立てているほか、実務・実践者として本学の非常勤講師に任命し授業や実習を担当してもらっている。

②特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
23. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
24. 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
25. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
26. 学生の健康管理を担う支援体制は整備されているか	④	3	2	1
27. 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
28. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
29. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

23. 本学では、キャリア支援委員会を設け、各専攻の先生と連携し学生の就職相談や就職支援を実施している。また、授業でもキャリアデザイン、企業研修、インターンシップ等の就職支援授業を実施するほか、森林技術開発・普及コンソーシアムとも連携しながら企業の担当者を招いて行う企業説明会を実施し就職活動につながる支援を行っている。
24. エンジニア科・クリエイター科の両学科主任のほか、エンジニア科では林業コース長・林産業コース長、及び各学年担任を、クリエイター科では4専攻主任を配置し学生の生活指導や相談体制を整備している。また学内に相談室を設け、専門カウンセラーによる相談を受けられる体制を整備している。
25. 本学単独の特別給費制度、県内金融機関3行による給付型奨学金制度、地元篤志家による給付型奨学金制度により学生への経済的支援体制を整えている。
また、国の「緑の青年就業準備金制度」や日本学生支援機構の奨学金制度も採用し学生への支援を行っている。
さらに、連携する複数の自治体において独自の奨学金給付制度を設立し学生の就学支援を行っている（下記、特記事項参照）。
26. 年1回の定期健康診断を義務付け実施している。また学内に保健室を設置し体調不良の際に利用できるよう体制を整備している。
27. 体調不良や怪我をした場合、適宜保護者へ連絡することとしているほか、問題のある学生に対しては、ただちに保護者へ連絡する体制を整備している。
28. オープンカレッジ（生涯学習）として一般市民を対象とした様々な講座や、専門家や本学学生を対象とした施業プランナー研修等の専門技術研修を実施しており、社会人向けの教育環境が整備されている。
29. 県内の3つの農林高校（岐阜、加茂、飛騨高山）との連携により、本学において

林業の実践的な講義や実習を実施している。

②特記事項

連携協定を締結している市町村の協力を得て、本校学生向けに独自の支援制度（給付型奨学金または補助金）を創設し、学生に対する経済的支援に取り組んでいる。現在、3市町で実施または翌年度から実施予定であり、今年度は1名が本制度を活用している。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
30. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
31. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
32. 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

30. 施設・設備については、本学の専修教育を実施する上で十分な規模を持ち整備されている。一方、開学から17年が経過し、屋外の木造個所や設備等に老朽化や不具合が発生しているが、予算上の制約もあることから、計画的な修繕に努めている。
31. 学内の実習施設や教育器材については、定期的な点検を行い安全性と機能を確保している。インターンシップについては、本学の制度として確立し、授業の一環として実施している。海外研修については、ドイツのロッテンブルク大学と教育連携により学生研修として実施しており、今年度もドイツのサマースクール及び森林環境教育研修に6名の学生が参加した。
また、学生1名がロッテンブルク大学へ1年間の留学中である。
32. 学内緊急連絡網、本学消防計画を策定し防災体制を整備している。また、全教職員及び学生を対象とした火災訓練、消防署・警察との連携による緊急災害救助訓練を実施した。

②特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	④	3	2	1
33. 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
34. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

33. 資料請求者に対して迅速な情報提供（学生募集要項等の発送）、オープンキャンパスや学園祭での情報提供、全国での進学相談会、学校訪問のほか、森と木の仕事セミナー等での進学・就職相談会、東京・大阪にある県の移住相談員の活用など、様々な取組みにより、適宜学生募集活動を実施した。
34. 学生募集時に、学校の特色、教育内容、卒業後の進路、取得資格等を記載した学校紹介パンフレットを配布し学校情報を正確に提供している。また、ホームページ上でも同内容を掲載し情報提供を行っている。

②特記事項

運営向上プランに基づき、小さいころから農林業に親しみ、体験をしてもらうことで将来の学生募集に繋がられることを目的として、小中学生向けの3校見学ツアーを実施し、38名の参加者があった。

また、一般家庭に対し学校の認知度を高めるため、地域のタウン情報誌に3校共同で学校情報を掲載した。

(8) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
35. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
36. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
37. 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

- 35. 県が定める個人情報の保護規程に準じて本学で定めた手続きに基づき適正に対応している。
- 36. 自己評価については、学内で設置している教務委員会で自己評価の検討を行い運営会議で確定する体制を整備している。また授業評価として学生アンケートを実施しており、この結果を自己評価に反映させるとともに、教員へ還元させ教育内容の向上に努めている。
- 37. 自己評価結果は速やかに本学のホームページで公開することとしている。

②特記事項

特になし

(9) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
38. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
39. 地域住民や県民、専門的実務者等に対する公開講座・教育訓練を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

38. 市町村連携事業として、本学と協定を締結した5市町法人に対して本学の技能やノウハウの提供、教員や学生の派遣を行い、市町等の課題解決の支援を実施している。

受託研究(11件)として、市町村や企業等から依頼を受け、課題解決のための研究や取組みを実施した。

地域の任意団体が実施する森のようちえん活動に本学の施設や森林を提供するとともに、本学教員による活動実施者への研修や活動支援を行っている。

39. 一般市民を対象としたオープンカレッジ(生涯教育)を、年間計画をたてて実施するほか、森林や林業の専門家に対する専門技術者教育を計画的に実施している。

②特記事項

特になし

(10) 国際交流

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
40. 留学生等の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
41. 留学生等の学習・生活指導等について学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

40.41. ドイツのロッテンブルク林業大学と教育連携を結び、学生や教員の交流、共同研究や共同研修を実施している。

今年度は、ドイツサマースクール、森林環境教育研修に合計 6 名の学生をドイツへ派遣し、それぞれ教員 1 名が引率し学生の研修を支援した。

また、ロッテンブルク林業大学から 2 名の短期留学生を受入れ、担当教員のもと木造建築、林業、森林環境教育の研修や、企業の協力を得てインターンシップを実施したほか、本学の学生 1 名がロッテンブルク林業大学へ 1 年間の留学中である。

②特記事項

特になし